

県外派遣報告書

審判員名	箱石 拓也	所属	U18
大会名	第78回 国民スポーツ大会関東ブロック大会		
期間	2024/8/24(金)～8/25		
会場	山梨県北麓総合体育館・鐘山総合体育館		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
8月20日	審判会議	オンライン会議(勤務先)	
8月23日	移動日	宿泊先	
8月24日	大会初日	北麓総合体育館	
8月25日	大会二日目	北麓総合体育館	
会議 講義 内容			
<p>審判会議(レクチャーのみ記載)</p> <p>プレゼンについて 東京都 佐藤浩太様 ・プロのゲームを任せられるかどうか→立ち居振る舞い、走り方、所作、動作、テーブルレポート、止まり方、背筋のばす等 ・苦しい時こそ、毅然とした態度でオンザコートで立ち続ける→自分にとって不都合な時の姿勢や表情に意識を向けてほしい。(自信なさげな顔つきや姿勢にならない) ・この試合を安心して任せられる姿を意識的に作っていく。→こういった姿勢を作っていくことで、この試合に何かあった際には必ずコントロールするぞ！というものに変えていく。</p> <p>東京都 千葉美幸様 ・第1印象は3秒から5秒で決まる。 →メラビアン法則 55%(見た目、表情、ボディランゲージ)、38%(聴覚情報)、7%(言語情報)。この法則から考えられることは？ やはり見せ方になる。=プレゼン。これが大事。 ・プレゼンテーションは正しくマニュアル通りにすることで、相手にしっかり伝わる。ベーシックに拘っていく。 →TOや観客にも分かりやすく大きく、はっきりと。 ・プレゼンテーションの重要なポイントは？ →しっかりと手を挙げてから、大きく、正しく、メリハリをつけることで、デリバリーに繋げていく。プレゼンはすぐに変えられる。</p> <p>群馬県 内野翔太様 1 ルール通りのコール→まずはルール通りを実践する事で、ゲームを安心・安全に進めていく。 2 ゲームコントロール→ゲームが間違った方向に進まないようにコントロールしていく。ラフにさせない。 3 選手、ベンチが欲しいコール→インテンシティーコントロール(これだけではないと思うが。。。) 4 観客が欲しいコール →ゲームの商品価値を高めていく。(このゲームに関わっている人たちの熱量や思いを汲み取れるようにしていく。) 5 試合が面白くなるコール →このゲームに関わっている全ての人たちの時間とお金を無駄にさせないレフェリングを心がけていく。 ・受け入れ方は人それぞれ。自分たちのキャラクターを客観視して、必要なコーリングとプレゼンをしていく。分かりづらいファールはプレゼンを分かりやすくする。当たり前のコールはシンプルにしていく。 ・周りからどう見られるか？ →自分に合ったスタイルで、色々やってみる。コピーは得意。モノマネで終わらないで、自分らしさを！</p> <p>栃木県 渡邊整様 1 今持っている力を出し切って欲しい。→中途半端は勿体無い。 2 ルールの理解から判定力を磨いてほしい。 →気付き、分析、判断、発信する力などを全ての人に分かりやすく伝える。判定については根拠を持って欲しい。そうすることで、今のライセンスに必要とされていることが、経験することによって自然と身についていく。 3 たくさんのゲームを生で見ましょう！映像では見られないものをしっかり見ていきましょう！</p>			

実技			
担当試合	期 日	2024/8/24(土)	少年男子
	対戦カード	千葉 VS 茨城	CC佐田 U1箱石 U2大木
	相手審判		
ミーティング内容		主任 若林謙作	
<p>・優勝候補同士の対戦カード。どちらもアウトサイドを中心に得点を積み重ねていくスタイルのチームだったので、ショットの前のスクリーン、1ON1に対するディフェンスとオフェンスのやりとり、AOSとリバウンドを中心にゲームコントロールをしていこうと考えていた。結果的には、どちらが勝ってもおかしくないゲーム内容であった。最後までクルーで集中して取り組めたことが良かった。</p> <p>講評</p> <p>・笛の吹き方とプレゼンについて。吹いた後の移動についてご指摘いただいた。→結果的には勿体無い。グッドコール、グッドプレゼンも台無しになってしまう。気をつけたい。</p> <p>・プライマリーについて。→いくつかのケースで一緒にコールしたものが、プライマリーテイクされていないものがある。確認してほしい。</p> <p>・メカニクスについて。→慌てて見に行ってるように見えるので、最終目的地をもっとハッキリさせてアジャストさせる。</p>			
担当試合	期 日	2024/8/25(日)	成年男子
	対戦カード	千葉 VS 神奈川	CC若林謙 U1濱 U2箱石
	相手審判		
ミーティング内容		主任 佐藤浩太	
<p>・成年決勝戦。試合目ともあって、かなり疲れもみえる試合内容だった。インサイドの神奈川とディフェンスとアウトサイドの千葉との戦い。序盤は千葉がアウトサイドを中心に攻撃を組み立てながら、得意の早い展開でリードする。神奈川も粘り強いディフェンスと高さのあるリバウンドで食らいつきながら、前半を終えた。後半は徐々に神奈川の高さが機能し始めて、逆転し、そのままリードを保って勝利した。2試合目だったこともあり、できる限り両チームの特徴を発揮させてタフになるようにゲームを進めていくことを打ち合わせし、プラン通りに実行できた。途中にラフになりかけたところでは、必ず笛が入っていたのでゲームの方向性がズレることなく終わらせることができた。</p> <p>講評</p> <p>ゲームに水を差してしまうような余計な笛がなくて良かった。ゲームもラフにならずに両チーム集中してくれていた。その中で、コントロールが必要とされる場面での笛をご自身のプライマリーで鳴らせるともっと良かった。また、ブロックorチャージについてダブルコールがあった際に、ブロッキングジェスチャーを2人とも出していたので、気をつけてほしい。</p>			
全体の感想			
<p>まずはじめに、山梨県バスケットボール協会の皆様には細部にわたるまで御配慮頂き大変お世話になりました。また、今大会へ派遣して下さいました埼玉県協会、日頃活動を共にしている県内審判員の皆様へ、この場をお借りして御礼申し上げます。</p> <p>担当した2試合から次へのステップへの課題について</p> <p>①プレゼン→判定したものをどう伝えていくか？</p> <p>②立居振る舞い→プレゼンと類似するところはあるが、例えば、トップリーグを吹くためには、やはり見栄えは大切になってくる。目立つ必要はないが、よりきちんとした姿勢や動作を身につけていきたい。</p> <p>③笛の吹き方→まだ笛が早いと認識している。良い判定に繋げるためにスタート、デベロップ、フィニッシュ、ディンジョンの流れを大切にしていきたい。</p> <p>④慌てないこと→今回担当した2ゲーム共に自身のプライマリーに対して笛が入ってくるケースがいくつかあった。笛が入ってくることに限っては、大きな問題なくやれている。しかし、その後の自身の判定やメカニクスなどに影響してくるケースがいくつかあった。慌てず、落ち着いて、レフェリングに集中できるようにしていきたい。</p> <p>オンザコートでは、臆することなく普段通りにできたと思う。派遣されるたびに感じることは、一人ひとりの審判員には必ず価値感や考え方があり、これらを一つにまとめて、選手やコーチ、そして観戦している人たちに還元することが大切であり、大変難しい作業だと痛感した。また、試合をコントロールすることの重要性を学べた。非常に大きな収穫だった。</p> <p>最後に、埼玉県の審判員の皆様におかれましては、今回の国民スポーツ大会で経験させていただいたことを共有したいと思っております。そして、皆さんで切磋琢磨し、県内だけの活動に満足するのではなく、県外や各ブロック大会の派遣を勝ち取るために共に努力し、強く逞しいチーム埼玉にしていきたいと強く思っています。今後ご指導ご鞭撻の程、宜しく願い致します。</p>			
<p>※本報告書の体裁は報告者自身にて自由に変更いただき問題ありません。分かりやすいよう図や写真を入れることも可能です。</p>			

県外派遣報告書

審判員名（報告者）	村上 翔	所 属	U12 カテゴリー
大会名	第78回国民スポーツ大会関東ブロック大会		
期 間	2024年 8月 24日 ~ 25日		
会 場	富士北麓公園体育館、鐘山総合体育館		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
8月 20日	審判会議、研修会	ZOOM 会議 参加者自宅他	
8月 24日	大会1日目	富士北麓公園体育館	
8月 25日	大会2日目	鐘山総合体育館	
審判会議、研修会 講義内容			
<p>▶レクチャー テーマ：プレゼンテーションについて</p> <p>○佐藤 浩太 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションといっても、様々なことに意識をすることができる。 →立ち振る舞い、姿勢、目線、移動する時にどちらの足から一步目を踏み出すかなど <p>○千葉 美幸 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メラビアンの方則から、見た目大切である。髪型や服装などの身だしなみに気を付ける。 ・プレゼンテーションにおいて、デリバリー、メリハリ、大きく、正しく行うことが大切である。 ・相手(プレイヤー、TO)に伝わるのが重要なので、ベーシックを大切に伝える意識を持つ。 <p>○内野 翔太 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試合中のコールには、ルールに沿っていることを大前提に多方面から求められるコールがある。 ルール通りの正しいコール→ゲームコントロールとして必要なコール→選手やベンチがほしいコール→観客が欲しいコール →試合が面白くなるコール ・受け入れ方は人それぞれであり、自分たちの役割や個性を客観視して、必要なコールとプレゼンテーションを行っていく。自分がどのように見られていて、どのようにしていくことで受け入れられるのかを考えていく。 <p>○渡邊 整 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持っている力を最大限に発揮することが重要であるが、すぐにできることだけではない。 ・判定を磨いていく中では、プレイヤーやチームが「何をしたいのか」「何をさせたくないのか」を分析することが大切である。その中で、判定の発信力や見ている人にどう伝わるかを考え、根拠をもっていくことが重要である。 ・多くの試合を生で見ることにより、コミュニケーションなどの現地でしか見られないものを吸収することが成長につながる。 			

担当試合①	
期 日	8月24日(土) 少年男子 1回戦
対戦カード	東京都 vs 栃木県
ク ル -	CC:小澤 朋克 氏(群馬) U2:白澤 健斗 氏(山梨)
ミーティング内容	審判主任:茂泉 圭治 氏(神奈川)
<p>▶ミーティング</p> <p>第1試合であったが、クルーで協力し、落ち着いて試合を運営することができた。また、クルーでも4Qでの試合展開が変化した時間帯にも対応することができた。個人的な課題としては、速攻でリードの際に判定に参加すべきケースがあった。実際には、センターが判定をしたが、リードのプライマリとして決断していきたい。他にも、インパクトのある触れ合いとしてコールしたものを、影響まで見極めてマージナルとして判定することも選択肢に考えていきたい。</p>	
担当試合②	
期 日	8月24日(土) 少年男子 敗者戦
対戦カード	千葉県 vs 神奈川県
ク ル -	CC:濱 雄介 氏(東京) U2:山本 恵一 氏(山梨)
ミーティング内容	審判主任:内野 翔太 氏(群馬)
<p>▶ミーティング</p> <p>試合の中でベンチコントロールが中途半端になってしまった。試合を通して、メリハリのある対応を徹底していく必要がある。レクチャーにもあったように、自分がどのように見られているのかの分析が必要である。その中で、どのようにプレゼンテーションを行なっていかを考えていく必要がある。</p>	
担当試合③	
期 日	8月25日(日) 成年女子 準決勝
対戦カード	山梨県 vs 千葉県
ク ル -	CC:竹澤 友美 氏(埼玉) U1:武井 晋平 氏(栃木)
ミーティング内容	審判主任:千葉 美幸 氏(東京)
<p>▶ミーティング</p> <p>クルーで気になるプレーヤーや現象を共有しながら、進めることができた。クロック管理を積極的に気にして行う中で、タイムアップの成立のさせ方、タイミングなどへより細かなこだわりをもって取り組む必要がある。トレイルの際に止まってプレーを見ていることが多いが、細かなポジションアジャストや予め動いて判定の準備をできるようにしたい。</p>	
全体の感想	
<p>はじめに、今大会の開催にご尽力いただきました山梨県協会の皆様、派遣していただきました埼玉県協会の皆様に感謝申し上げます。</p> <p>大会へ参加させていただき、レクチャーにあったようにプレゼンテーションについて深く考える機会となりました。他者からどのように見られていて、自分自身がどのようにプレゼンテーションをすることが周囲に伝わりやすいのかということを考え、今後取り組みたいと思います。また、他にも一歩目をどちらから出すのかなど、改めて1つ1つにこだわりを持って活動していくことの重要性を感じました。</p> <p>今回の経験を今後の活動に生かしていくと共に、還元できるよう精進して参ります。</p>	

県外派遣報告書

審判員名	若林 哲	所属	U15
大会名	第78回国民スポーツ大会関東ブロック大会		
期間	令和6年8月24日(土)～25日(日)		
会場	富士北麓公園体育館、鐘山総合体育館		
スケジュール			
期日	内容	場所	
8月20日(火)	審判会議	オンライン	
8月24日(土)	少年女子1回戦、敗者戦	鐘山総合体育館	
8月25日(日)	少年男子決勝	富士北麓公園体育館	
会議 講義 内容			
<p>審判会議では山梨県バスケットボール協会専務理事の仙洞田様、同県審判委員長の佐田様、関東バスケットボール協会審判委員長の平原様よりご挨拶がありました。平原様からは、性別もカテゴリも異なる大会なので、各審判員がクルーチーフメンタリティを持ってゲームをコントロールして欲しいとのお話がありました。</p> <p>その後、4名の指名審判員の方々からレクチャーがありました。「プレゼンテーション」がテーマになっており、佐藤太様からは、立ち姿や身だしなみ(髪型なども含む)も含めてプレゼンテーションである。判定した内容に説得力を持たせるためにもプレゼンテーションは重要である、とのお話がありました。</p> <p>千葉美幸様からは、メロビアンの方則について話がありました。第一印象は3～5秒で決まり、55%が視覚情報(見た目、表情、ジェスチャー)で決まる。プレゼンテーションはすぐに治せる部分もあるので改善図って欲しい、との話がありました。</p> <p>内野翔太様からは、自分自身を客観視したうえでプレゼンテーションを工夫するべき。自分が周りからどう思われているのか(印象・雰囲気)、どう見えているのか(身長・体格)を考察することは重要であり、客観的な視点をチーム・選手→観客→ゲーム全体というように広げていくことでゲームコントロールの質が高まる、という話がありました。</p> <p>渡邊整様からは前述3名の内容を踏まえた上で、①自分のライセンスに合った判定をすること、②積極的に判定をすること、③試合を生で観戦することについてお話がありました。特に③について、映像からは感じ取れないゲームの雰囲気やコミュニケーションの取り方などを積極的に学んで欲しい、とのことでした。</p>			
実技			
期日	8月24日(土)	男子 女子	少年女子1回戦
担当試合	対戦カード	群馬県 VS 山梨県	CC U1 U2
	相手審判	CC:藤本梨紗氏(神奈川県) U2:根反祥恵氏(茨城県)	
ミーティング内容 主任 雨宮 恵氏(山梨県)			
【審判主任より】			
CCを中心にゲーム序盤のテンポセットがとても良かった。プライマリーのレフェリーがコールできるとベター。山梨県のベンチコントロールもコミュニケーションで対応しており、安心感があった。			
【自己反省】			
ゲーム序盤のテンポセットに乗り遅れてしまった。このゲームをどのように運営したいのかという方向性と試合中の気付きにかけていた。			
期日	8月24日(土)	男子 女子	少年女子敗者戦
担当試合	対戦カード	神奈川県 VS 栃木県	CC U1 U2
	相手審判	CC:手塚清孝氏(山梨県) U2:中嶋 氏(山梨県)	
ミーティング内容 主任 梶 崇司氏(栃木県)			
【審判主任より】			
コンスタントにグッドコールが積み重なり、ゲームが非常にスムーズに進んだ。アウトオブバウンズの協力について、短時間でコミュニケーションを取るべき。時間がかかるとベンチにとっては不感傷につながる。Cポジションからミドルラインを超えてコールするプレーを吟味するべき。余程のことがない限り、TとLに判定を委ねた方がいい。			
【自己反省】			
自分の中ではシンプルにコールできていた。ファウルバランスも気にしていたが、気にするあまり、無理に吹いてしまうケースがあった。			
期日	8月25日(日)	男子 女子	少年男子決勝
担当試合	対戦カード	東京都 VS 茨城県	CC U1 U2
	相手審判	CC:佐田幸一氏(山梨県) U2:安藤俊明氏(千葉県)	
ミーティング内容 主任 茂泉圭治氏(神奈川県)			
【審判主任より】			
ゲーム自体は非常に面白いゲーム。ダイナミックなプレーを引き出していた印象。前半と後半のプレーの変化にもっと対応できるとよい。ちょっとした体の使い方の変化に気づき、コールしていくことでもっとスムーズにゲームを進めることができる。ダブルコールが多かった。ダブルコールが悪いわけではないが、セカンダリーが少し遅らせてコールする意識があれば、鳴らさずにシングルコールにできる。			
【自己反省】			
発見と分析に時間を要してしまったせいで、コールすることができないケースが続いてしまった。結果的にはコールすることで同じようなケースは解消されたが、もっと早くコールしてメッセージを伝えるべきだった。			
全体の感想			
<p>まず初めに開催県である山梨県バスケットボール協会の皆様、そして今大会へ派遣してくださった埼玉県バスケットボール協会に感謝申し上げます。今回は3試合を担当させていただきました。</p> <p>普段担当しているカテゴリよりも年齢が上のカテゴリということで、色々考えさせられる場面が多くありました。その中で特に感じたのは、自分が担当するゲームがどうなって欲しいのか、そのためにどのようなプレーに奮を入れてメッセージを伝えていくか、というポジションが自分には難しいということです。起きた事案に関して判定(コール)するという短期的な判定ではなく、自分が描くゲーム像に近づけていくために判定(コール)したり、コミュニケーションを取っていくことが必要だと思いました。U18以上のカテゴリでは選手・ベンチとコミュニケーションを取ることもより重要になってきます。まだまだコミュニケーションに苦手意識があるので、今後もチャレンジしていきたいと思っております。</p> <p>以上で派遣報告とさせていただきます。ありがとうございました。</p>			

※本報告書の体裁は報告者自身にて自由に変更いただき問題ありません。分かりやすいよう図や写真を入れることも可能です。